

募 集 要 項

氏 名：中野 幹久	研究室：第 4 研究室棟 4K318
専 攻 分 野：オペレーション・情報管理論	
演習テーマ：サプライチェーン・マネジメント	E-mail：mnakano@cc.kyoto-su.ac.jp

演習内容・主なテキスト

中野幹久ゼミ 19 期生を募集します。ゼミについては、下記 URL の HP をご覧ください。
(あるいはインターネットの検索エンジンを使って、「中野幹久研究室」で検索してください)
ゼミ生が制作した紹介動画もあるので、ぜひ視聴してください。

<http://www.cc.kyoto-su.ac.jp/~mnakano/index.html>

演習テーマは、「サプライチェーン・マネジメント(SCM)」です。1年次生にはあまりなじみのない言葉かもしれませんが。経営学の基本的なマネジメント要素である戦略や組織、情報の視点から、主に生産とマーケティング(開発・販売)のつながりを対象に、完成品の製造業とサプライヤー、流通業との関係のあり方を探ります。(SCMとは何かについては、上記HPの「ゼミナール」-「SCMに関する Q&A」ご参照)

演習では、主に「グループ研究」と「個人研究」を行います。

グループ研究では、「サプライチェーンの視点からの商品・事業開発」に実践的に取り組みます。具体的には、生産に関わる人・組織と流通・加工・サービスに関わる人・組織をつないで、商品かつ／あるいは事業のコンセプトを考えたり、調査、試作を行う(狭義の商品・事業開発)だけでなく、魅力的な素材を探したり(素材開発)、販売方法やプロモーションを考える(売り方開発)という一連のプロセスにトライします。2023 年度、17 期生(ゼミ2年目)は 5 つのグループに分かれて活動しています。例えば、コーヒーグラウンズ(コーヒーかす)を使った商品開発、京都の乳業メーカーの牛乳を使ったゼミ生自身のカフェ運営(期間限定)、京野菜の生産者と飲食店をつなぐマッチングとメニュー開発、京都の銭湯へのイベント・商品の提案など、学生自らが企業・店舗・生産者と交渉しています。過去 4 年間は商品開発が中心でした(下記事例ご参照)。ここ数年、イベントを企画・提案するゼミ生が出てきたので、「商品・事業開発」というテーマに広がっています。

16 期生 京とうふ藤野と共同開発したバームフィーユ(2022 年度)

https://www.kyoto-su.ac.jp/news/2023_bu/20230213_130_keiei.html

15 期生 ハッ橋いちごトースト(2021 年度)

https://www.kyoto-su.ac.jp/news/2022_bu/20220314_130_keiei.html

14 期生 京野菜を使ったパン(2020 年度)

https://www.kyoto-su.ac.jp/news/2021_bu/20200222_130_keiei.html

13 期生 もち米を使ったドーナツ(2019 年度)

https://www.kyoto-su.ac.jp/news/2021_bu/20210113_130.keiei.html

18 期生(1年目)は、2年目の商品・事業開発を幅広い視点で行うための課題解決として、経済的価値と社会的価値の両立に取り組む企業に関するフィールド調査を行っています。下記のページは、ふるしきの製造小売業である山田繊維株式会社や和菓子屋の叶 匠壽庵から、先進事例としての取り組みをご紹介いただいたときの授業の様子です。

https://www.kyoto-su.ac.jp/news/2022_bu/20220713_130_keiei.html

https://www.kyoto-su.ac.jp/news/2021_bu/20210831_130_keiei.html

このように、グループ研究については、1年目は課題解決型、2年目は課題発見・解決型と位置づけています。

個人研究では、各自が興味・関心のあるテーマを選んで、研究を行います。SCM に関する研究でもよいですし、経営学に関するものであれば、なんでも構いません。調査では、みずから1次データを集めるために、アンケートやヒアリングを実施します。指導教員(中野)といっしょに、企業を取材することもあります(最近Zoomを使ってオンラインで行うこともあります)。過去におもしろかったのは、「セブンカフェ」(開発責任者へのヒアリング)「半導体調達」(メーカーへのヒアリング)「神山湧水珈琲」(上賀茂神社へのヒアリング)「クラシックギター」(工房へのヒアリング)「京都・清水焼」(陶芸家へのヒアリング)「マスカラ」(原材料調査)です。当ゼミの論理的思考の方法論にもとづいて、研究を進めていきます。

以下、演習はどのようなスケジュールで進んでいくのかを説明します。

<演習1>

3年間つき合う同期で交流を深めつつ、課題解決型のグループ研究について、基礎知識を学びます。学外から講師を招いて、ご講演いただくこともあります。軌道にのってきたら、フィールド調査を始めます。新歓合宿後、ゼミ長、副ゼミ長、各種委員といった組織をつくり、ゼミ生主体でのゼミの運営も始まります(なお、2023年度は新歓合宿を実施できませんでした)。

<演習2>

ゼミ生主体でのゼミ運営の中、引き続きグループ研究を中心に活動します。神山祭模擬店やオープンゼミといったイベントの準備や運営も、ゼミ生主体で行います。グループ研究は、専門家や実務家に対してプレゼンテーションを行い、1年間の成果を審査してもらいます。

<演習3>

2年目は、グループ研究と個人研究の2本立てになります。グループ研究は課題発見・解決型になります。個人研究では、ゼミの論理的思考の方法論にそって、フィールド調査やデータ分析を進めてください。

<演習4>

グループ研究、個人研究ともに、いよいよ最終的な成果物を出す時期です。秋の各種イベントも主体的に運営しつつ、2年間の集団演習を終えます。

<演習5・6>

ゼミの論理的思考の方法論にそって、各自、卒業論文を書きます。演習3・4の個人研究をベースにするのが望ましいです。春学期中にテーマを決めて、秋学期にはフィールド調査やデータ分析、考察を行います。授業は発表&質疑応答の場となります。

教員からの要望

当ゼミの特徴は、次の3点に集約されます。

(1)「主体性を大事にする」

ゼミの運営を学生が行うため、主体性を大事にしています。これまで主体的に物事に取り組んできた人だけでなく、主体的に取り組めるようになりたい人にぜひ来てほしいです。リーダーの経験者はもちろん、組織にはフォロワーも必要なので、リードするのが得意な人もフォローするのが得意な人も、両方とも歓迎します。

(2)「理論や方法論、原理・原則を身に付ける」

第二に、マネジメントや研究について、きちんとした理論や方法論、原理・原則を身に

付けることを重視しています。勤や経験も大事だと思いますが、そこに理論や方法論、原理・原則を加えれば、自信をもって思考・判断・行動できるようになるでしょう。

(3)「自分のスタイルを開発・拡張する」

最後に、各学生が自分らしさを出してくれたり、それをより広げてくれることに資するゼミでありたいと思います。それぞれの学生が、自分の価値観・哲学・興味・関心・得意技・豊富な知識を大事にしてもらいつつ、ほかの学生のスタイルも尊重し、そして自分のスタイルをよりよいものにしていく、それがゼミという場です。ゼミの各種の活動（研究、イベント、ふだんの授業など）は、そのための手段となります。

上記の特徴を踏まえた上で、下記の3つの条件に当てはまっている人が望ましいです。

- ・「特定の業務や企業に限らず、生産もマーケティングも、メーカーも小売も、いろいろ見たい／知りたい」、つまり視野を広げたい人
- ・「論理的な思考や文章表現ができるようになりたい」かつ「文献で調べて終わりではなく、実践的な課題の発見・解決をやってみたい」という意欲がある人
- ・グループワークやみんなで何かをやることを楽しめる人／苦にならない人

Web 申込様式への入力にあたり、次の点に留意して、丸番号をつけて区別して書いてください。

「志望理由」には、まず初めに、この募集要項を読んだことを必ず明記して下さい（必須）。その上で、①当ゼミについて、どのような手段で情報を集めたのか、②なぜ当ゼミに応募することにしたのか、③当ゼミで最も身に付けたいこと（下記のいずれか、または複数の場合は2つまで。ローマ字明記）を、区別して書いてください。

- A：商品・事業の企画・開発に関する知識・技能
- B：リーダーシップや組織のマネジメントに関する知識・技能
- C：プレゼンテーション（発表、資料作成）やコミュニケーションに関する知識・技能
- D：学術的な知識・技能（例：調査・分析・考察、文章表現）
- E：その他の知識・技能（具体的に書いてください）

「自己 PR」には、④一言でいえば、自分はどんな人間なのか、⑤長所と短所、⑥当ゼミの活動内容や大事にしていることを踏まえて、自分が貢献できること（下記のいずれか、または複数の場合は3つまで。具体的に理由・根拠となる実績なども含めて。ローマ字明記）を、区別して書いてください。

- A：商品・事業の企画・開発や実践的な課題解決への貢献
- B：リーダーシップや組織のマネジメントへの貢献
- C：データの分析や画像・動画の編集などの IT 活用、デザインへの貢献
- D：研究活動における文献調査や理論的な分析・考察などの学習面での貢献
- E：その他の貢献（具体的にご提案ください）

履修希望科目

ゼミの研究活動に必要な専門知識を学ぶために、2年次の春学期に「経営情報概論」、3年次の春学期に「サプライチェーンマネジメント論」、秋学期に「サプライチェーンマネジメント・ケース分析」を履修して下さい。

教員の自己紹介

中野幹久です。山口県生まれ、大阪府育ち。大学では、理学と工学の間のような学部にいました。そこでの学びを通じて、自分はどちらかと言えば応用（実践）志向であること

に気づきました。経営学に興味をもったのは、卒業してからです。

東京で11年半、会社員として、情報・システムに関する調査・コンサルティングやマーケティング・リサーチの仕事に携わっていました。30代半ばで大学教員になり、京産大に来て19年目です。自然に囲まれた、大学らしいキャンパスが好きです。

1年次生向けの授業は「ベーシック・セミナー」しか担当していないので、直接会って話しをしたことがない人がほとんどだと思います。ぜひオープンゼミにご来場いただいて、お会いしましょう。

ゼミ生からの紹介

大畑 有希子 (17期生・ゼミ長)

中野ゼミでは「自分たちが主体になること」が大切です。何に興味があり、取り組みたいのかを考え、ゼミ運営を行います。一からゼミ運営を行うことは容易ではありませんが、きっとやり甲斐や達成感を味わうことができます。一度きりの大学生活、何かに挑戦してみる。その挑戦を中野ゼミでしてみませんか？

川瀬 隼 (17期生・ゼミ長)

私たち中野ゼミは、主体性に重きを置いていて、SCMをテーマに掲げています。授業の内容も学生で決めますし、ゼミの運営も学生が主体となって行っています。中野ゼミで大きな軸になるのがグループ研究です。いくつかのグループに分かれてSCMの研究を行っています。方法論を学ぶだけでなく、実際にそれを社会で実践することができるので、身につく力も大きいと思います。また、中野ゼミでは企画という時間を取っています。この企画で何をするかも自由です。とにかく「自由」なんです。自由であればあるほど難易度は上がりますが、自分たち次第でどうにでもできます。日々試行錯誤しながら組織を形成し、運営していくことに私は大きなやりがいを感じています。何かにチャレンジしたいという熱量をお持ちの皆さんに、ぜひ中野ゼミをオススメします。

小川 美咲 (18期生・ゼミ長)

私たち中野ゼミは、どこのゼミよりも自由なゼミです！（*あくまでも個人の意見です）自由を求める人にはぴったりのゼミだと思います。ただし、皆さんに注意していただきたいのは、【自由】の意味をはき違えていませんか？自由というと、ゆるっと、テキトーといったイメージがあるかもしれませんが、しかし、このゼミにおける自由というのは、楽で簡単などという意味ではありません。何もかもが自由な中野ゼミは、頑張れば頑張るほど偏差値などでは表せない力を身に付けられる貴重な場所です。社会で失敗は好まれますが、このゼミではいくら失敗をしても恥はかきません。小さくも大きな一歩を踏み出したい学生の皆さんはぜひ中野ゼミへ！！！！

最後に18期生のInstagram、よかったらご覧ください。

https://www.instagram.com/nakanozemi_18/